

あなたと 博物館

No. 251
2025.3.15

特集：松本市立博物館 令和7年度特別展
「信州の工芸 一作り手たちの原点」



長井 一馬 作 「竜の櫛」



Matsumoto City Museum

松本市立博物館 令和7年度特別展

2025.4.19 sat ▶ 6.9 mon

「信州の工芸 — 作り手たちの原点 —」

主催：松本市立博物館 協力：松本クラフト推進協会

松本は“工芸のまち”と呼ばれる程、手しごとが盛んです。この度、本展では信州各地で活躍する現代作家たちとその作品を紹介します。

作家たちがつくり出す作品には熟練した技術と深い想いが込められています。作品たちは個々の思考や生き方さえも、見る側に訴えかけてきます。

今回はそんな想いのこもった数々の作品に加え、作家たちの原点とも言える作品も展示します。さらに、松本地域の文化の源である博物館収蔵品も紹介することで、工芸の原点に迫ります。

簪

長井氏の作品に並列して展示するのは、当館所蔵の簪かんざしです。本資料は、藤原彦太郎氏が蒐集した装身具。女性の凛とした美しさを表現するため、軸や先端に彫金が施されています。彫金の技術は1,500年以上の歴史を持ち、武士が台頭した時代には刀剣や甲冑の装具に多用されました。

長井氏は地金からつくりだす彫金技法を駆使し、精緻を極めた銀細工を制作しています。

いずれの作品も、一手一手に込められた作者の息遣いと卓越した技巧を垣間見ることができます。

(小林)



簪 (松本市立博物館所蔵)



長井一馬作「竜の櫛」



長井一馬作「海獣紋腰帯金具」

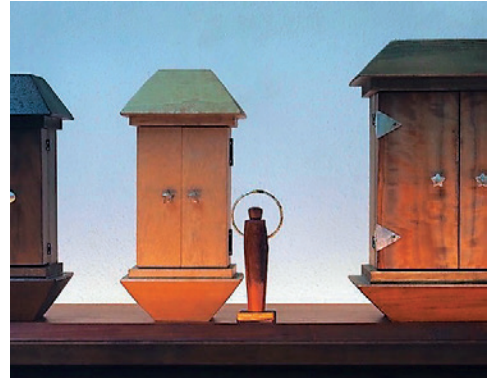
厨子

博物館所蔵資料として展示するのは、松本民芸館の創設者・丸山太郎が蒐集した厨子^{ずし}。丸山が見惚れた厨子からは、無言で語りかけてくる物の美を感じることができます。

前田氏は命のある木を大切にしながら作品をつくっています。作品に魂を込められているのが感じられ、作者の素敵な人柄が伝わってきます。「無言で語りかけてくる物の美」が感じられる作品です。(本間)



厨子(松本民芸館所蔵)



前田純一作「厨子」

※厨子を新規制作予定。作品の様相などが変更になる可能性があります。

湿板写真と乾板

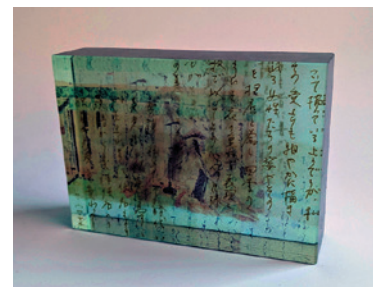
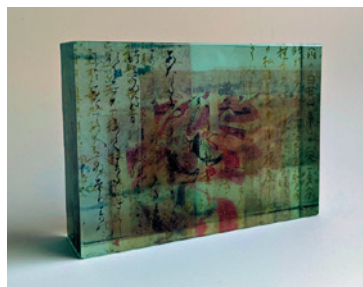
博物館所蔵資料より展示するのはガラスの湿板写真と乾板です。湿板写真は1851年に発明された写真技術で、約20年後の1871年に乾板が発明されました。湿板写真は撮影者が自ら材料を作る必要がありましたが、乾板は保存ができたので工場で大量生産できるようになりました。

博物館資料の湿板写真は、松本藩士が第二次長州戦争に従軍した際、一時的に陣を置いた大阪で撮影されたものです。また乾板には明治時代の松本城が写されています。

松原氏は思い出の景色や過去の記実などを作品に閉じ込め、ガラス作品として素敵に残している作家です。昔の出来事や景色をガラスに込めている点が湿板写真や乾板と共通しています。(本間)



湿板写真・乾板(松本市立博物館所蔵)



松原幸子作「手紙の“a tale of Genji”」

ここで紹介した作品はほんの一部であり、会場では23名の現在の作品・原点といえる作品や博物館資料を展示予定です。

ぜひお越しいただき、実物をご覧ください。

(松本市立博物館 学芸員/本間花梨)

(松本市時計博物館 学芸員/小林駿)

臼井吉見「稲妻」論考

— 曾根の婦美子に対する心情が分からないのは何故か —

1 「稲妻」概要

「稲妻」は臼井吉見と同じ、松本高等学校出身の北沢喜代治・田中富次郎により創刊された同人誌『鳩の巣』に掲載された小説です。『鳩の巣』第2号に掲載された北沢の小説「最後の銀貨」が警察当局の検閲に触れたため、『鳩の巣』は3号をもって発禁処分になりました。「稲妻」は第1号・第2号に連載されていましたが、『鳩の巣』が打ち切られたのと同時に、終了となってしまいました。

「稲妻」には、主人公・婦美子と彼女が憧憬を抱いていた曾根の心情が描かれています。主人公である婦美子の曾根に対する心情は分かりやすく描かれている一方で、曾根が婦美子に対して抱いている心情は謎が多い印象です。

打ち切りとなってしまった「稲妻」ですが、書かれている範囲で曾根の婦美子に対する心情が分からないのは何故か考えてみたいと思います。



臼井吉見
(旧制高等学校記念館所蔵)

2 「稲妻」ストーリー

物語は主人公・婦美子が曾根と再開した場面から始まります。曾根が松本高等学校の学生だった時、婦美子は曾根に憧憬を抱いていました。しかし、婦美子は大人になって久しぶりに曾根に会うと、曾根に対し従妹である春子を紹介します。春子は、婦美子が好きなはずの曾根を自分に紹介したのは何故か、婦美子に尋ねます。それに対し婦美子は「恋愛などもう出来さうもない」と答えます。その後婦美子・春子・曾根の三人で会食しました。婦美子・春子は、会食を終えた後に一人で帰って行く曾根の姿を見送ります。ここで「稲妻」は終了となります。



鳩の巣
(旧制高等学校記念館所蔵)

3 曾根の婦美子に対する心情について

曾根の婦美子に対する心情を分析していきます。文芸理論の「焦点化」及び「距離（直接話法）」を用いて読んでいきます。

3-1 焦点化

焦点化とはジェラルド・ジュネットが提示した物語論で、次に示す3種類があります。

- 1 焦点化ゼロ。全ての登場人物の心中を含め、物語の全情報を把握している視点（＝全知の視点）。
- 2 内的焦点化。語り手が知覚している情報と登場人物の知覚している情報が一致している視点。原則的に登場人物の本心を表している部分。
- 3 外的焦点化。登場人物の思考・感情・感覚などを描かず、外面しか描かない視点。

「稲妻」の各場面を焦点化を用いて読み、登場人物の視点毎にまとめると表1のようになります。表1を見ると、主に内的焦点化が用いられていることが分かります。内的焦点化が用いられている部分は、原則として登場人物の本心が分かる部分です。

3-2 曾根の婦美子に対する心情

表1のうち曾根と婦美子がお互いに対する心情を述べており、かつ内的焦点化されている部分をまとめると表2のようになります。

※表2については以下QRコードよりご参照ください。



婦美子については、曾根に対する心情を具体的に述べている部分が見られます。例えば、「前々から曾根の人物について、三造から何かと予備知識を得ていたし、三造も関係していた文芸部の雑誌で、彼の詩や評論も読んでいたので会わぬ前から漠然と少女らしい憧憬を抱いていた。」「曾根と会っているうちに、若い婦美子

は、漠然と抱いてゐた彼への尊敬が、次第に薄らいでゆくのがさびしかった。曾根の立場もよくわかる気持ちもしたし、痛々しくも思つたが、自分の周囲に相次いで展げてくる、新しい生活の魅力と、興奮とが、自然曾根から遠ざからせる結果になつてしまつた。」とあります。このことから、過去の婦美子は曾根に対して憧憬を抱いていましたが、次第に尊敬の気持ちが薄らいでしまったことが分かります。

それに対し、曾根が婦美子に対して心情を述べる際には具体的な内容が述べられていません。例えば、「(婦美子の顔を見ていた) 曾根はどぎまぎして顔を赧らめた。」とありますが、その理由が明確に書かれていません。そのため、曾根の婦美子へ対する心情が分かりづらくなっているのだと思われます。

「曾根の婦美子へ対する心情」は「空所(テキストに叙述されていない部分)」となり、読者に謎を残します。

4 まとめ

「稲妻」の先行研究は存在しておらず、あまり研究が進んでいない作品でした。焦点化を用いることで「稲妻」の新しい読み方をすることができ、作品の研究を進めることができたと思います。

(参考文献・URL)

- ・白井吉見『鳩の巣 第1巻第1号』(1937、鳩の巣社)
- ・白井吉見『鳩の巣 第1巻第2号』(1937、鳩の巣社)
- ・松本和也編『テキスト分析入門 小説を分析的に読むための実践ガイド』(2016、株式会社ひつじ書房)
- ・ヴォルフガング・イーザー『行為としての読書 美的作用の理論』(2005、岩波書店)
- ・「大河小説『安曇野』の作家 白井吉見」(2017、安曇野検定準備講座第8回〈安曇野市公式ウェブサイトより〉) <https://www.city.azumino.nagano.jp/site/azuminokentei/31301.html>

(松本市立博物館 学芸員／本間花梨)

表1

場面	視点	焦点化
①主人公・婦美子と曾根が出会う場面	婦美子	内的焦点化
②婦美子の過去	婦美子	内的焦点化
③曾根の過去	曾根	内的焦点化
④野々宮について紹介		焦点化ゼロ
⑤婦美子の野々宮への思いが書かれている場面	婦美子	内的焦点化
⑥三造が曾根と野々宮について思いを巡らせる場面	三造	内的焦点化
⑦婦美子が曾根について三造と話す場面	婦美子	内的焦点化
⑧三造が曾根について婦美子と話す場面	三造	内的焦点化
⑨現在の婦美子が曾根と出会う場面	婦美子	内的焦点化
⑩現在の曾根が婦美子と出会う場面	曾根	内的焦点化
⑪婦美子が店で曾根と春子と小野と話す場面	婦美子	内的焦点化
⑫曾根が店で婦美子と春子と小野と話す場面	曾根	内的焦点化
⑬婦美子が春子と共に、帰ろうとする曾根の後を歩く	婦美子	内的焦点化
⑭曾根が帰るため歩く場面(婦美子・春子が曾根の後を歩く場面)	曾根	内的焦点化
⑮婦美子・春子・曾根が三人で食事をする場面	曾根	内的焦点化
⑯曾根が帰る場面		焦点化ゼロ

特別展調査 — 十王様を求めて —

はじめに

今回は、令和7年度夏季特別展「十王展（仮称）」に向けた調査の中から、奈川で行った調査の様子をご紹介します。

1 十王とは

まず、そもそも十王とは何なのか、簡単に説明します。

十王とは、仏教において死後行われる審判を司るとされる10人の王のことです。特に、十王の中でも最も有名な閻魔王は聞いたことがある人も多いのではないのでしょうか。

閻魔王は、インド古来の神・ヤマラージャ (Yamarāja) を起源としています。かつては天上の楽園の主としての性格も持ちましたが、後に死後の世界を司る恐ろしい王としての側面が強調されていきました。

仏典を通じてヤマラージャは中国へと伝わります。そこで道教思想等と交わり、地獄の裁判官としての姿が成立します。同時に、仏教の四十九日（7日）＋中国の忌斎日（3日）に合わせて配される形で十王が成立しました。

こうして中国で成立した十王信仰は、11～12世紀にかけて日本に伝わり、死後の裁きを行う恐ろしい存在として、そして墮地獄から救ってくれるありがたい存在として信仰されました。

表 十王一覧

忌斎日	十王名称	本地仏
初七日	泰広王	不動明王
二七日	初江王	釈迦如来
三七日	宋帝王	文殊菩薩
四七日	五官王	普賢菩薩
五七日	閻魔王	地藏菩薩
六七日	変成王	弥勒菩薩
七七日	太山王	薬師如来
百か日	平等王	観音菩薩
一年	都市王	阿閼如来
三年	五道転輪王	阿弥陀如来

2 十王の仲間とアイテム

実際の十王像を紹介する前に、十王像とセットになっていることが多い冥界の仲間たちや、裁きに欠かせないアイテムをご紹介します。

(1) 奪衣婆—亡者の衣をはぎ取る

その名の通り、亡者から衣を奪うお婆さん鬼です。奪った衣を衣領樹という木に掛け、枝の下がり具合によって罪の重さをはかると言われています。

閻魔王と並ぶ知名度を誇り、他の十王を差し置いて閻魔王と二人で祀られたり、単体で祀られたりすることもあります。

(2) 司命・司録—閻魔王の書記

冥府で働く冥官で、基本的には閻魔王の左右に座しています。司命は閻魔王の横で亡者の罪を読み上げる役で、紙を持って読み上げるようなポーズをしています。司録は亡者の罪状を記録する役で、記録用の木札と筆を持っているのが特徴です。

(3) 檀茶幢（人頭杖）—肩の上で人間を監視

生前の人間の善悪を常に監視している二人一組の神です。男女の姿で表されることが多く、男神は悪行を、女神は善行を閻魔王に報告するとされています。柱の上に頭が2つ載った姿で表現されます。

(4) 浄玻璃鏡—生前の罪を映し出す

亡者が生前に犯した罪を映し出す鏡です。この鏡の前ではどのような罪でも暴かれてしまいますので、口先で罪を隠し、罰を逃れようとしても無駄です。

(5) 業の秤—罪の重さをはかる

片方には大きな岩を、片方には亡者をぶら下げ、罪の重さをはかります。木像や石像では、後ろ手に縛られ、まるで鍾のように丸まった姿で表現されていることが多いです。

3 奈川・古宿十王阿弥陀堂の木像十王像群

奈川・古宿にある十王阿弥陀堂には、その名の通り十王と阿弥陀如来が祀られています。元は地域の公会堂に安置されていましたが、数年前のお堂新築に伴い移転されました。

こちらの十王像群は、十王12軀、奪衣婆1軀、檀茶幢1点、おもり1点からなります。

十王が12人もいますが、造りの違う御像が混在していることから、おそらく2つの十王群が混ざってしまったものと考えられます。



図1 堂内の様子

明治時代に富山から購入した御像と伝えられていますが、寛政12年(1800)の書上帳には既に十王阿弥陀堂の名が見られることから、お堂自体は江戸時代から存在していたことが分かります。

現地で調査させていただいた際、いくつかの御像は底面に墨書が確認できました。十王や本地仏の名前のほかに、仏師や施主の名前と思われる墨書もありましたが、その場では判読できず…。特別展開前にはぜひ解読したいと思います。

かつて古宿町会では、この十王阿弥陀堂の前の庭で引導渡し(葬儀の一部)を行っていたそうです。この十王様は阿弥陀様とともに、地域の人々の旅立ちを長い間見送ってきたのです。そこには、あの世へ旅立つ人々を静かに見守り、この世に残された人々に寄り添うような優しさが感じられる気がします。



図2 十王阿弥陀堂と庭

4 奈川・林照寺の地獄絵図

林照寺は奈川・黒川渡に位置する臨済宗の寺院です。十王阿弥陀堂の調査の際に、「林照寺さんに地獄絵があるよ」とお聞きしたことがきっかけで、拝見させていただくことができました。

こちらは五幅からなる掛軸で、このうち一幅が阿弥陀三尊来迎図、四幅が地獄絵という構成になっています。残された墨書から、文政年間(1818-1829)に描かれたものと考えられます。



図3 地獄絵(一部)

かつては、2月15日に行われる厄払いのお祭りの際に、地域の人々へ公開されていたそうです。

現在は、地域の人や子どもたちに見てもらうために、人が多く訪れる施餓鬼の時期に本堂に掲げられています。お寺の方は「地獄絵を見ることで、自身

の生活を省みてほしいという思いがあります」とおっしゃっていました。200年前の人々も現代の我々と同じように、この絵を見て己の行いを反省し、気を引き締めたのかもしれませんが。

実は、江戸時代以前に描かれた地獄絵は、市内では今のところこちらの1件しか実見できていません。

「うちの地区にもあるよ!」という方がいらっしゃいましたら、ぜひ博物館へご連絡ください。

おわりに

紙幅の都合上、今回は2か所だけのご紹介となりましたが、この原稿を書いている1月現在、15か所以上で調査をさせていただいています。

充実した展示になるよう、これからも調査を続けていきますので、展示が始まった暁にはぜひご来館ください。

(松本市立博物館 学芸員/武井成実)

展示スケジュール

詳細はホームページへ! <https://www.matsu-haku.com/>

まる博 検索



館名称	4月	5月	6月
松本市立博物館	■特別展「信州の工芸—作り手たちの原点—」 4月19日(土)～6月9日(日)		

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

特別展「信州の工芸—作り手たちの原点—」

会期 4月19日(土)～6月9日(日)
 午前9時～午後5時(入室は午後4時30分まで)
 会場 松本市立博物館2階特別展示室
 閉室日 毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)
 観覧料 特別展単独券
 大人1,000円 大学生600円
 高校生以下無料
 常設展セット券
 大人1,200円 大学生800円
 高校生以下無料

協力 松本クラフト推進協会

〈関連事業〉

スツールの座面編み ※要申込み

ペーパーコードを用いて座面を編みます。
 日時 4月26日(土) 午前10時～午後1時、
 午後1時30分～4時30分
 料金 ①8,000円 ②12,000円 ③23,000円
 (①②③のうちコース選択)
 講師 山形 英三氏
 会場 松本市立博物館 講堂

キッチンツールづくり ※要申込み

キッチンツールを一からつくります。
 日時 5月10日(土) 午後1時～4時
 料金 18,000円
 講師 小田 時男氏
 会場 松本市立博物館 講堂

木の実の時計づくり ※要申込み

木の実を用いてオリジナル時計をつくります。
 日時 5月18日(日) 午前10時～11時45分、
 午後1時～2時45分
 料金 3,500円
 講師 吉沢 紗也加氏
 会場 松本市立博物館 交流学習室

竹のビー玉スライダーづくり ※要申込み

ピタゴラ装置のようなコースターをつくります。
 日時 5月31日(土) 午前10時～11時45分、
 午後1時～2時45分
 料金 1,300円
 講師 吉沢 紗也加氏
 会場 松本市立博物館 交流学習室

ギャラリートーク

第1回 ※申込み不要
 内容 ギャラリートークを通して、これからの松本の工芸について考えます。
 日時 4月29日(火・祝) 午後1時30分～3時
 料金 特別展観覧料
 講師 工芸の五月スタッフ

第2回 ※申込み不要
 内容 工芸作家によるギャラリートークを行います。
 日時 5月17日(土) 午後1時30分～3時
 料金 特別展観覧料
 講師 大場芳郎氏・谷進一郎氏・前田純一氏
 司会 小田時男氏

木のおもちゃづくり講座 ※要申込み

内容 環境にやさしい木材をつかって「カラクリ屏風」「立体知恵の輪」「清少納言の知恵の板」「立体ポリオミン」をつくります。
 日時 5月11日(日) 午後1時30分～4時30分
 料金 無料
 講師 松本市地球温暖化防止市民ネットワーク
 会場 松本市立博物館 講堂

金継ぎ実演 ※要申込み

金継ぎの手順が分かる実演を行います。
 日時 5月24日(土) 午後1時～4時
 料金 無料
 講師 榎谷 明日香氏
 会場 松本市立博物館 会議室2
 ※漆はかぶれる可能性がございますので、HPの注意事項をお読みの上ご参加ください。

松本市立考古博物館から ☎0263-86-4710

速報展「発掘された松本2024」

令和6年に松本市内で実施した発掘調査の成果として、出土遺物や、発掘現場の写真パネルを展示する展覧会です。
 会期 2月8日(土)～3月30日(日)
 午前9時～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)
 会場 松本市立考古博物館2階企画展示室
 休館日 2月は平日休館、3月は月曜日休館
 観覧料 (常設展観覧料が必要)
 高校生以上200円、中学生以下無料
 その他 主催は松本市文化財課、「史跡弘法山古墳発掘50周年記念企画展」を同時開催

博物館分館の観覧料・休館日を変更します。

令和7年4月1日から博物館分館の観覧料及び休館日が以下のとおりになります。

館名	休館日	観覧料
国宝旧開智学校校舎	3月～11月：第3火曜日 12月～2月：毎週火曜日	一般 電子 600円 紙 700円 小・中学生 300円
松本民芸館	毎週火曜日	一般 500円 小・中学生 無料
松本市時計博物館	毎週火曜日	一般 500円 小・中学生 200円
旧制高等学校記念館	毎週月曜日	一般 無料 小・中学生 無料
松本市はかり資料館 重要文化財馬場家住宅 松本市歴史の里 松本市山と自然博物館	毎週火曜日	
旧山辺学校校舎 松本市立考古博物館 窪田空穂記念館 松本市四賀化石館	3月～11月：毎週火曜日 12月～2月：土曜・日曜・休日以外	
松本市旧司祭館	3月～11月：第3火曜日 12月～2月：毎週火曜日	
松本市高橋家住宅	3月～11月：土曜・日曜・休日以外 12月～2月：月曜～土曜	
松本市安曇資料館	5月～11月：土曜・日曜・休日以外 12月～4月：休館	

あとがき

博物館に勤務するようになり、松本の歴史や文化について勉強していますと、普段から寺社や道祖神などが目にとまるようになりました。何気なく見逃しているものがいかに多いか気づかされます。知ることで見える世界が変わっていく、そんな体験を少しでもご提供できるよう、職員一同ますます力を尽くしてまいります。
 (松本市立博物館 竹藤 敏)

あなたと博物館 No.251

発行年月日/令和7年(2025)3月15日
 編集・発行/松本市立博物館
 〒390-0874 松本市大手3丁目2番21号
 Tel.0263-32-0133
 URL: <https://www.matsu-haku.com/>
 e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp
 印刷 川越印刷株式会社



松本市立博物館
 Matsumoto City Museum